

〈黄色いお客さん〉

畑に鮮やかなオレンジの花が咲き出した。日本に古くから自生しているノカンゾウやヤブカンゾウを品種改良した“ヘメロカリス”。ニッコウキスゲなどと同じく一日花で、今日咲いた花は明日には閉じてしまう。毎日新しい花が次々に咲いて農作業の疲れを癒してくれる。園芸種だけあってオレンジ色が濃く、“どうだ！”と言わんばかりに自己主張している。ユウスゲのような儚さを漂わせる花もいいが、これだけ堂々と咲くと、“参りました”と降参するしかない。例年、アブラムシがビッシリと付くのだが今年は全くいなくて、ひときわ鮮やかなオレンジ色に染まっている。まだまだ咲き始めたばかりなので、しばらくこの花から元気をもらえそうだ。



もう一頭、“黄色いお客さん”が現れた。今年初めて見た“モンキチョウ”だ。モンシロチョウは今日も5～6頭遊びに来ていたがモンキチョウは初めて！数が少ないせいか、あるいは淡い黄色に惹かれるのか、ついつい目が追いかけてしまう。シュンギクの黄色い花も終わり、次の黄色はキュウリやカボチャ、ゴーヤ、ズッキーニ、落花生の花。次々に畑に表れる“幸せの黄色いハンカチ”は収穫の希望を乗せて力強く鮮やかに存在を示す。